

発行所

静岡県高等学校障害児学校教職員組合
〒420-0004 静岡市葵区末広町1-4
(高教組の事務所、移転しました)
高教組新聞編集委員会
http://www.s-koukyouso.jp/
e-Mail info@s-koukyouso.jp
TEL (054) 254-6900 FAX (054) 254-0814
Facebook:「静岡高教組」で検索

第484号
2023年
2月17日

高教組しんぶんは組合費とカンパによって発行されており、
全教職員に配布しています

あなたも
高教組へ

2面 ・高校教育シンポジウム
・県評女性部初春のつどい



どうする「給特法」

時間外勤務の合計
86時間24分 (4週間合計・平均)



2023/01/19
全教「教職員勤務実態調査 2022」記者発表

給特法見直しの動き
2023年は教職員の長時間過密労働解消のた
たかしの山場になる年
となります。文科省は、
2022年度に行った勤
務実態調査の結果を踏ま
え、2023年度中に「給
特法の法的枠組みを含め
た教員の処遇の在り方の
検討」をすすめるとして
います。

時間外勤務86時間

私たち全日本教職員組
の時間外勤務86時間を超
死ラインと呼ばれる月間
の時間外勤務80時間を超
えています。
教職員が人間らしく健
康でいきいきと働き、ゆ
とりをもって子どもの教
育に専念できるよう、学
校現場における長時間労
働の解消が、喫緊かつ最
重要な課題となっている
のは論を待ちません。

実情に合わない
給特法

これまで、学校現場で
は、1971年に成立し
た「公立の義務教育諸学
校等の教育職員の給与等
に関する特別措置法」(給
特法)によって超勤限定
4項目(①生徒の実習に
関する業務、②学校行事
に関する業務、③教職員
会議に関する業務、④非
常災害等やむを得ない場
合に必要な業務)以外の
超過勤務を命じることが
禁止され、時間外・休日
手当が支給されないこと
から、時間外勤務があつ
てもそれは教員の「自発
的なもの」とされ、勤務
時間の適正な把握や時間
外勤務を削減していくた
めのとりくみが十分に行
われてきませんでした。

そのため教職員の長時
間労働は年々激化し、コ
ロナ禍による業務量の増
大もあって、いまや多く
の教職員が過労死レベル
で勤務している実態で
す。そのことが、教職員
未配置の広がりや教員採
用選考の倍率低下の大き
な要因の一つとなってい
ることは明らかです。

このような事態を解決
するために、超勤限定4
項目以外の超過勤務を命
じることを禁止した給特
法の原則は堅持しながら
も、実際に生じた時間外勤
務については、労働基準法
37条に準じて計算した賃
金を支払うしくみを構築
することが必要です。使
用者に時間外手当の支払
いを求めることは労働者
に時間外勤務をさせたこ
とに対するペナルティとな
り、使用者が労働時間短
縮のための方策を考えざ
るをえなくなるからです。
同時に、今の状況のな
かで時間外勤務を縮減
し、長時間労働を解消す
るためには、正規教職員
の数を大幅に増やして授
業の受け持ち時間数を削
減するなど、一人あたり
の業務量を縮減すること
が不可欠です。

昨年12月10日に障害
児学校部主催の「性の学
習会」を開催しました。
岐阜大学医学教育開発セ
ンター併任講師、NPO法
人「アスペルデの会」の川
上ひろ先生をお招きし、
「障害のある子どもたち
の性」と題するお話を聴
きました。県内の特別支
援学校の教員を主に、25人
の参加者がありました。
二部構成のうち前半の
川上先生の講演では、主
に思春期における性の問題
行動の特徴とその問題行
動の捉え方、そして適切な
対応について伺いました。
性に関する問題行動と
して取り上げられること
の多い「二次成長への戸惑
い」や「異性間の距離感」
等について、
「不適切行動そのもの
よりも、要求をうまくコン
トロールすることができて
いないことが問題である」
「行動そのものを規制
することは解決にはつな
がらない」



後半は、参加者がそれ
ぞれ興味のあるテーマに分
かれ、グループワークを行
いました。「人との関係」交
際」「性器いじり」などにつ
いて、参加者が現在向き
合っている困難事例を紹介
したり、これまでに対応し
た経験を交えてアドバイス
しあったり、充実した意見
交換の場となりました。
自身の悩みや取り組み
を紹介し合う場を普段か
ら職場で設定することは難
しいこともあり、自分から
発言される参加者が多かつ
たことが印象的でした。
障害児学校部では来年
度も「性の学習会」の開催
を予定しております。ア
ナウンスをお待ちください。

視座

有名チェーン店では
なく、個人店。今や、開
店後一年で四割が閉店す
るといふ飲食業界。巷で
存続する個人店は、すでに
その存在が偉業なんです。
リスケットの気持ちよさを
つづけています。格安で、
ほほほがたがた、ロボット
が料理を運んできたりも
して、提供スピードも速い
有名チェーン店も、時に助
かるのですが、個人店巡
りはやめられませんか。単
に美味いだけでなく、店
主の手柄に惹かれ、店の居
心地に癒され、他のお客さ
んとおしゃべりもできる。
そんな店を見つければ、
ちよつとした探検のよう
で楽しいんです。▼大手チエ
ーンにはなくて、個人店に
しかないものは何か。多分、
オリジナリティと手仕事
とコミュニケーションなん
でしょう。どのコンビニに行
っても、百円払って、ボタン
を押せば、コーヒーが飲める
時代に、わざわざオーダー
の後に豆を挽きドリップし
てくれる喫茶店で、コーヒ
ーを飲みたくなるのは、その
三つがあるからでしょう。
▼ICT流行の今日この
頃、生徒が高価なタブ
レットを購入し、見つめ
る画面には「個別最適化」
された動画が配信される
のでしょうか。「装置産業」
といった装置を設置すれ
ば、その後は新たなコン
テンツに次々と課金させ
続ける……。教育現場の
市場化は止められないの
でしょうか。▼個人店好
きは、少数派なのかもし
れません。個人店のな
い町はさみしいもので
す。さ、今日はどの店に
食べに行こうかな。そう、
食べてはたかいた、ただ
かっちは食べる!

主張

非常勤講師の待遇を改善せよ
人事委員会に措置要求

教職志望
者が減少し、
代替未配置
が深刻な中
で、非常勤講
師は必要不
可欠な存在である。に
もかかわらず、不合理な
実態が見過ごされてい
る。後にたくさんの人
が、続くことを期待してい
る。(掛川西高校 岡野修)

「時給520円」を見
たら、「何十年前の募
集?」と思うだろう。今
年の最低賃
金961円の
半額だ。
これが今
年、非常勤講
師をしている
私の実質的な時間給で
ある。
非常勤講師の報酬は、
「(単位)時間あたり」
2,820円。私の月収
は2,820円×授業約
8時間=約21,900
円。定期テスト実施

月の平均勤務は42時間
(内訳 授業8時間、
問題作成と採点28時
間、準備6時間)。時給
は、21,900円÷42時
間=約520円となる。
こんな低賃金を許す
と、非常勤講師だけな
く、試験問題作成採点
等に加え、勤務実態に
合った賃金を支給する
こと。
②2,820円は、「コマ
の授業のための準備等
も含んだ報酬」であると
説明するが、授業と準
備、問題作成、採点、評
価等の各々の割合を示
すこと。

③非常勤講師には、試
験問題作成等の業務は
命じないと言いが、やら
ざるを得ない例は多数
ある。その勤務実態調
査を県教委は直ちに行
うこと。
④非常勤講師の年次有
給休暇は、年度末で残日
数がある時は、授業がな
くても業務を認め、取
得できるようにするこ
と。

①非常勤講師の勤務と
して、授業と二体の準備
措置要求を行った。

「不正行為の発生」
「不正行為の発生」
「不正行為の発生」

「不正行為の発生」
「不正行為の発生」
「不正行為の発生」

「不正行為の発生」
「不正行為の発生」
「不正行為の発生」

「不正行為の発生」
「不正行為の発生」
「不正行為の発生」

# 高校教育シンポジウム

## 「いじめの実態、なぜ起こるのか」

荻上チキさん



1月28日と29日に山梨県石和温泉で開催された「高校教育シンポジウム」に参加しました。3年ぶりに現地に集まって、参加者同士で学んで交流することができ、対面の良さを実感しました。

全体講演は荻上チキさんの「いじめの実態、なぜ起こるのか」。評論家のチキさんは「NPO法人ストッパいじめ！ナビ」代表理事であり、TBSラジオの番組でもメインパーソナリティーを務め活躍しています。番組で毎回登場する専門家がチキさんに詳しく教えるので「自分は昔のヨーロッパ上流貴族の子弟のようです」と語っていました。その薫陶を受けたチキさんは理路整然と話し、質疑でも素早く的確に回答するので、頭の回転の速い賢い方だなと圧倒されました。

### 「いじめは増えているのか？」

ここ二十数年は横ばい。増えたり減ったりをくり返すように見える文科省のデータは不十分。報告件数に対して、実際の発件数はもっと多くあり、文科省のデータはどの時期にいじめ対策が取られたかを示すにすぎない。

### 「いじめ相談は無意味なのか？」

否、中学高校では相談が減るが、実際に「7割が第三者に相談する」といじめがなくなった」との

「いじめ相談は無意味なのか？」  
否、中学高校では相談が減るが、実際に「7割が第三者に相談する」といじめがなくなった」とのデータがあり解消につながる。主流はからかい・仲間外れという関係性に属するもの（コミュニケーション操作系）で、暴力系は減少。また、小3から中2にピーク、1・2学期に大きなピークがある。



「いじめ相談は無意味なのか？」  
「いじめの研究が明らかになってきた」とは、他人の痛みに対する共感性が重要で、罪悪感のみつもりは抑止につながり。教師との関係が良好でない場合、ストレスが強まり加害傾向が強まる等々。

「いじめの研究が明らかになってきた」とは、他人の痛みに対する共感性が重要で、罪悪感のみつもりは抑止につながり。教師との関係が良好でない場合、ストレスが強まり加害傾向が強まる等々。

「いじめの研究が明らかになってきた」とは、他人の痛みに対する共感性が重要で、罪悪感のみつもりは抑止につながり。教師との関係が良好でない場合、ストレスが強まり加害傾向が強まる等々。

「いじめの研究が明らかになってきた」とは、他人の痛みに対する共感性が重要で、罪悪感のみつもりは抑止につながり。教師との関係が良好でない場合、ストレスが強まり加害傾向が強まる等々。

「いじめの研究が明らかになってきた」とは、他人の痛みに対する共感性が重要で、罪悪感のみつもりは抑止につながり。教師との関係が良好でない場合、ストレスが強まり加害傾向が強まる等々。

### 県評女性部初春のついで

### 「多様性が当たり前！誰もが自分らしく生きるために」

1月28日(土)静岡労働政会館にて県評女性部の初春のついでが開催され、会場23名、オンライン23名の参加がありました。多様性が当たり前！誰もが自分らしく生きるために」と題して静岡大学の松尾由希子さんに講演していただきました。

左利きやA型型の血液とほぼ同じ約1割の性的少数者がいると言われ、LGBTという言葉も一般的になり、3月から静岡県でもパートナーシップ制度が始まりますが、セクシュアルマイノリティについての理解は不十分、何が差別になるのか、差別はどこから来

るのか、無意識の差別を自覚し、なくすためにどうするか等をテーマにお話していただきました。印象的だったのは、性的に惹かれない、アセクシュアル(asexual、無性愛)の存在、恋愛して当たり前という呪縛に悩むアセクシュアル対象の居場所(ニースが高いこと)でした。生物学的にも男女と明確に区別できず性はグラデーションであり、性的自認や性的指向も流動的で生涯固定しないこともある。性自認が男女のどちらでもない、あるいは性別の自覚がないXジェンダーノンバイナリーが若年層に多いという統計結果等を紹介され、

アップデートの必要性を痛感しました。また、男女を区別し、異性愛・結婚というルールに乗せようとする学校教育のなかで苦しんでいたゲイの会社員のお話(音声)を聴きました。マイクログレッション(小さなmicro攻撃性 aggression)と言われる無意識・無自覚の差別がLGBT当事者に多大な影響を与えますが、意識し自覚することのできない理由を解き明かしました。

ワークの中で「小さい頃から男女で違うお祝いをし、学校でも男女別を強化している」という参加者の意見がありました。

さらに、性的マイノリティを否定するような言動や笑う人に対して、自分ならどうするか、当事者や周囲を勇気づけることができるような言葉態度や介入の仕方を真剣に考えました。

「これらは学校段階できちんと教わるべき人権の問題で、このような講演を学校でやってほしい」という声がありました。

「根拠のない希望」を語る機会が失われ、指導要領や指導計画に縛られ、こんなことをやったら喜ぶんじゃないかなということができるようになっていきます。子ども達の思いに寄り添いたいと考えながら、忙しさをやらずに、自分らしく考えることを手一杯にしています。全国の仲間達と語り合い、特別支援教育は「人を大事にする」ことが大切だと改めて感じ、たくさんの方から励まされた2日間でした。子ども達、そして我々が豊かな生活につながります。

「根拠のない希望」を語る機会が失われ、指導要領や指導計画に縛られ、こんなことをやったら喜ぶんじゃないかなということができるようになっていきます。子ども達の思いに寄り添いたいと考えながら、忙しさをやらずに、自分らしく考えることを手一杯にしています。全国の仲間達と語り合い、特別支援教育は「人を大事にする」ことが大切だと改めて感じ、たくさんの方から励まされた2日間でした。子ども達、そして我々が豊かな生活につながります。

清水特支 加藤奈史

## 子育ての事、仕事のこと みんなで話しませんか

### 第10回 子育て応援カフェ

2023年2月26日(日) 10:00 ~ 12:00

オンライン開催

QRコードか info@s-koukyouso.jp から申し込みを



子育てのこと、仕事のこと みんなで話しませんか？

子育てや仕事で悩んでいる方、同じ悩みを持っている方、話を聞いてほしい方、話を聞かせてほしい方、ぜひ参加してください。

第10回 高教組主催 子育て応援カフェ

2023年2月26日(日) 10時00分~12時00分

オンライン開催 (ZOOM利用)

参加費 無料！ 仕事生も子育て生も大歓迎です！

Zoom ID: 888 888 888

Zoom Meeting ID: 888 888 888

Zoom Meeting Passcode: 888 888 888

Zoom Meeting Link: https://zoom.us/j/888888888

### 「根拠はなくとも希望を語ることも教育である」

その言葉に勇気づけられて参加した1月7日、8日の「第22回障害児学級・学校学習交流会」が、今回私は1日目「卒業後の豊かな生活を支える教育実践」分科会、2日目「青年期の自閉症の子どもへの教育」分科会に参加し、青年期の子ども達に必要なこと、大切にしたいこととは何だろうかと考えた2日間でした。

「卒業後、豊かで自分らしく生きるためには、信頼できる仲間や先生にありのままを受け止められ、かけがえのない自分を感ずることが大切であり、それができるのは学校時代である。学校時代だからこそできる実践を私たちはしていきたい。」そんなメッセージを受け、はっとしました。

高等部を担任するようになり、進路が決まらないのでは困る、卒業後すぐに職場や事業所に適応できなくなってしまうのでは困ってしまう...という先々の心配に目を向けがちで、子ども達に今必要な経験は何かという視点に立てていなかったのではないかと、社会に出たら学校ほど手をかけられないから...と、必要だと思う支援や関わりを減らさなくてはいけないのかと悩んだことも思い出します。

「根拠のない希望」を語る機会が失われ、指導要領や指導計画に縛られ、こんなことをやったら喜ぶんじゃないかなということができるようになっていきます。子ども達の思いに寄り添いたいと考えながら、忙しさをやらずに、自分らしく考えることを手一杯にしています。全国の仲間達と語り合い、特別支援教育は「人を大事にする」ことが大切だと改めて感じ、たくさんの方から励まされた2日間でした。子ども達、そして我々が豊かな生活につながります。

清水特支 加藤奈史